

**地盤工学会関東支部**

**江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会**

平成 23 年度第 1 回委員会 議事録

出席者：正垣委員長、大里幹事、金田幹事、太田委員、末岡委員、中山委員、坂梨委員、倉岡委員、小野諭委員、西岡委員、小野日出男委員、渡邊委員、内田委員、土門委員、川辺委員、山本委員（笠委員代理）、土倉委員、原委員  
欠席者：菊地委員、内藤委員、菅野委員、昌子委員、田中委員

委員会の進行は次の順番で行われた。

1. 委員長の挨拶
2. 委員名簿の確認
3. 委員の自己紹介
4. 配布資料の確認、番号付け
  - 1-1 地盤工学会関東支部 江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会 第 1 回 議事次第（金田幹事）
  - 1-2 江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会（PPT印刷）（正垣委員長）
  - 1-3 ATC19 遺産遺跡地盤工学アジア地域委員会の設立と委員募集（正垣委員長）
  - 1-4 準備状況（正垣）（正垣委員長）
  - 1-5 特殊地下壕に対する当研究委員会の方向性（貝山地下壕を例にして）（正垣委員長）
  - 1-6 横須賀航空隊・横須賀第一航空技術廠・横須賀行陰関連地下壕についてPPT（大里幹事）
  - 1-7 貝山壕における洞窟式（ドラム）油槽（大里幹事）
  - 1-8 要塞計画と歴史（大里幹事）
  - 1-9 土木史跡委員会掲示板サーバーについて（大里幹事）
  - 1-10 日本の近代土木遺産
  - 1-11 新横須賀市史
  - 1-12 横須賀市の土木史跡の視察
5. 本研究委員会の趣旨説明（正垣委員長）
6. 現在までの活動報告・議論
  - ・ 4 月 13 日開催のキックオフ集会、および第三海堡引上げ施設・貝山地下壕見学会について委員長より説明が行われた。

・大里幹事より今後資料の入手が研究の生命線なるとの指摘並びに原委員に対し資料の所在等に関しての質問が行われたが、資料の入手については原委員より一部の昔の資料は未整理史料として防衛研究所史料閲覧室にある可能性があるが、現在土木・建築施設に関する歴史を研究している研究員がいないので、資料を入手するためには研究員と協力する必要がある、さらに史料書庫への入庫はできないとの情報をいただいた。

## 7. 本研究委員会の今後の進め方について

今後の進め方について正垣委員長から説明があり、全体統括G、地下空間G、港湾G、地上構造物Gの4グループに分かれて活動することについて意見交換を行った。

各委員の主な意見は次のとおりである。

- ・横須賀の衣笠に二重構造の地下弾薬庫があり研究対象としては興味を引くのではないかと。(原委員)
- ・委員会名が「江戸期以降の土木史跡」となっているが対象とする構造物は土木だけではない。また、現在までの議論では軍事関係に視点が向いているが、民間施設を含め様々な対象物があるのではないかと。(小野委員)。委員会としては、漏れのない検討が必要で、全体統括Gで、まずは項目を確認する(正垣委員長)。
- ・地下空間Gは貝山地下壕、港湾Gは第三海堡、ドライドックを対象にすることもあり、軍事的な要素が高い。軍事的な技術がどのように民間に展開して行ったかについて次の段階で議論することができるのではないかと。
- ・この研究委員会は横須賀にある軍事施設をターゲットに行き、3年後に委員会が継続するか、新たなものが立ち上がるかは別として長期的なスパンで考えたらいいのではないかと。(渡辺委員)
- ・「土木史跡」というと建築も農業土木にも歴史があるので違和感がある。(小野委員・川辺委員)
- ・台場のような江戸期以降から埋め立てられた地域における粘性土の歴史的な変化についても検討したい。(川辺委員)
- ・様々な施設や事象に研究興味が湧くのは当然で、研究に対してモチベーションを下げるような研究対象の限定はすべきではない(太田委員)。
- ・史跡保存・修復等に関しては、さまざまな課題があるので検討と意見交換が必要である。(渡辺委員)

### ※委員会の当面の合意事項と対外対応

・歴史遺産がターゲットの本委員会であるが、現在の資料収集で当時の設計思想など現在の技術と比較できる状況にあると考えられる貝山地下壕や第三海堡、ドライドックをまずは本研究委員会で取り扱いたいことの大まかな了承が得られた。しかし、これだけではなくトンネル、ダム、城郭等についても研究委員会で積極的に展開していくことで合意した。

また、委員長より第三海堡やドライドック、貝山地下壕等については、施設管理者である湾口航路事務所並びに米軍、横須賀市等の協力が必要で、湾口航路事務所及び横須賀市の協力に関する調整は進んでいるが、米軍とは今後ドライドック等施設の課題点に関する意見交換、情報提供を行うことで米軍側との信頼関係を構築してゆく必要がある旨の説明があった。

## 8. 情報連絡用 HP について

大里幹事から当研究委員会専用のセキュリティがかかった HP・掲示板について、使用法等の説明があった。

- ・掲示板等に資料のアップをすることで大量・大容量のデータに関する情報の共有を図ることが目的であり、情報支援を図るためのツールであるとの説明があった。

9. 参加委員のグループ分けと今年度の予定・目標

今回委員会に参加できなかった委員には、どのグループに参加するかを金田幹事が直接電話で説明して、意向を伺う。

各委員が参加するグループは次のとおりである。

- ・全体統括G：正垣委員長、大里幹事、原委員、太田委員
- ・港湾G：正垣委員長、大里幹事、金田幹事、末岡委員、菊池委員、坂梨委員、小野諭委員、渡邊委員、土倉委員、原委員、菅野委員、笠委員、太田委員
- ・地下空間G：正垣委員長、大里幹事、中山委員、倉岡委員、内田委員、土門委員、原委員、昌子委員、内藤委員、太田委員
- ・地上構造物G：金田幹事、西岡委員、小野日出男委員、川辺委員、大里幹事、田中委員、笠委員、田頭委員、太田委員

(下線の委員が各Gのリーダー)

- ・グループ分けが終わり 20 分程度今後の活動について意見交換を行った。
- ・各Gから今後の活動についての簡単なコメントを要約すると、次のとおりである。

\* 港湾G：

7月のドライドック見学と米軍との意見交換会を踏まえて、方向性とスケジュールを固める。  
関係委員は、ドライドック見学と米軍との意見交換会に備えて、収集資料等を確認しておく。

\* 地下空間G：

収集資料を趣意書の方針の方向で検討して、WG開催時期等を、Mailで調整する。

\* 地上構造物G：

各委員のテーマを趣意書の方針で検討して、e-mail等で意見交換して、WG開催等の調整を図る。

・今年度の予定

\*全体委員会；

9月（11月のジオ関東の打合せと進捗状況の確認）、12月（進捗状況の確認；忘年会を兼ねる）

\*見学会；

7月（ドライドックと第1,2,3海堡等）開催日は、米軍との調整を含め後日決定する。

\*各WGの会合；(随時)；

WG開催に関する情報は、事前に総ての委員に連絡して、WG構成員以外の参加も出来るようにする。

\* 関東支部大会；11月？日（山梨県？？？）；ディスカッションセッションで経過報告。

10. 今後の進め方について

- ・見学会について；資料1-12に基づき目的と調整の状況が説明された。来週早々に開催日を決めるようにMailで調整する。
- ・GeoKantoの参加について

・次回委員会開催予定日：

平成23年9月 日 ( ) 14:00～17:00 地盤工学会